

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

R7年度

法人名	社会福祉法人ほほえみ	事業所名	看護小規模多機能ホーム なごみ
所在地	(〒830-0205) 福岡県久留米市城島町大依 310 番地 13		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ① 看護、医療、介護が連携を図り情報共有することで、利用者が健康で安心できる生活を送ることができるよう支援を行う
- ② 利用者と家族の意向を把握し、都度相談しながら一人一人の状態に合わせた柔軟なサービスを提供する
- ③ 住み慣れた家や地域で最後まで自分らしい生活が続けたいという高齢者や御家族の思いに寄り添うこと

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 10 月 21 日		(15) 人 ※管理者を含む
----------------	---------------------	--	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025 年 12 月 16 日	出席人数 (合計)	(11) 人 ※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	☐ 自事業所職員 (7 人) ☐ 市町村職員 (1 人) ☐ 地域包括支援センター職員 (1 人) ☐ 地域住民の代表者 (1 人) ☐ 利用者 (1 人) ☐ 利用者の家族 (1 人) ☐ 知見を有する者 (1 人) ☐ その他 (1 人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価



項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・職員のスキルアップができるように、個別の目標を立て法人内外研修や職種別会議への参加を推奨していきます ・今年度は職員の入れ替わりも多くあり、今までの事業所での課題を職員間で話し合いながら、意見を元に改善、活性化を目指します ・BCP 研修や消防立ち会いの避難訓練を実施し、全職員の防災への意識を高め実際の場面に活かせるようにしたい	・毎月法人全体での研修会開催 ・毎月職種別会議において学習会開催 ・毎日のミーティングや月1回の会議を実施 ・年2回のBCP研修の開催 ・避難訓練の実施	・毎月職種別会議において職員が主体となり学習会開催している。研修会への参加率も増えており、職員のスキルアップに取り組んでいます。 ・職員が発言しやすい雰囲気づくりを心掛け毎日意見交換や情報共有を行っている。サービス提供に対しての適切な記録の仕方、職員主体での課題抽出・会議開催、事故防止対策の振り返りなど連続性を持って行えている ・夜間想定訓練1回、昼間想定地震・火災訓練1回、洪水避難訓練1回を実施した。職員全員一丸となって声を掛け合いながら取り組みました。 ・いろいろと努力して取り組まれていると思います。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27) ・看護職・介護職の円滑なコミュニケーションが図れることにより、利用者・家族にきめ細やかな対応ができ、小さな変化にも対応出来るサービス提供を目指します ・利用者の状態の変化に合わせて、事業所職員がサービスの追加や変更を提案できるように努めます	・担当者会議やミーティングで状況変化に応じた対応について検討・評価を実施。看護・介護・介護支援専門員が話し合いをできる場を設けている	・日々の状態観察、生活の中で小さな変化に気付く視点を意識し、得た情報は職種間で発信し合い情報共有に努めている。 - 変化に対してチームで共有し迅速に対応を行いサービス計画に反映出来るようとりくんでいるが、情報共有だけで終わり具体的支援の方針が定まらないことがある

			・事業所職員から積極的にサービス追加や変更の提案が上がっています ・せっかくの職員からの提案には検討を重ねて、今後に生かしてほしいと思います。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・多職種との連携を密にし利用者を中心としたサービスの提供が円滑に行なえるように努めます ・システムツールを用いて医療機関とのやり取りを円滑に進めていきます	・利用者の状態変化、悪化時などの際には、主治医、訪問看護と連携 ・救急引継ぎシートの作成・更新 ・システムツールを用いた主治医・医療機関・家族との連携	・毎月訪問看護報告書を提出以外にも状態の変化をその都度報告、相談し予測支持をいただき急変時にも対応できるようにしています ・救急引継ぎシートを実際に活用することができた ・システムツール（バイタルリンク・SMSLINK）を用いることで医療機関や家族とのやり取りがスムーズに行えるようになった
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	・運営推進会議の記録を全職員に周知し、会議でいただいた要望、助言などを把握しサービスの提供に反映していきます ・継続して地域との交流を深め、地域の相談窓口の一つとして、看護小規模多機能の特徴を活かし、地域からの相談の対応を行っています	・運営推進会議にて事業所の活動状況の報告・会議録の閲覧 ・地域からの相談対応 ・ほほえみ祭の開催 ・町内活動への参加	・運営推進会議において事業所の取り組みを理解していただけるように、分かりやすい説明などを心掛けました。 ・地域の方々から施設見学や利用の相談があった場合は迅速に調整を図り必ず対応を行い適切な介護サービスの紹介や当事業所のサービスの趣旨や特徴を説明しました。 ・10月にほほえみ祭を開催し地域の方々も多数参加されました。 ・法人として町内行事（文化祭）への参加を行いました。

				・利用者2名にデジタルカラー診断のモデルを勤めて頂き、仕上がりに大変満足されていました
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	・利用者本人と家族の状況に合わせて、訪問・通い・泊りサービスを組み合わせた柔軟な支援ができる体制を維持します ・44項目のできていることは今後も継続し自己評価の向上を図っていきます	・利用者・家族のニーズの抽出、それに応じたサービスの提供 ・家族との関係作り ・無理のないシフト作成 ・日々のミーティングや会議の中で意見を出し合いながら課題抽出・改善策の検討を実施しました	・利用者とその家族には「安心してサービスを受けてもらっている」と考える職員が2/3以上となったが継続・向上できるようサービスの調整、提案を随時行っています ・より多くの職員が家族の不安や意向に対して耳を傾けながら関係作りに努めることが必要。 ・本人と家族の関係性が途切れないような支援を目指したい ・離職者もなく、以前に比べると毎日安定した人員を確保でき業務もスムーズに行えていると考える職員が多かった・デジタルカラー診断のモデルとは？	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・毎月職種別会議において職員が主体となり学習会開催している。法人全体での研修会への参加率も増えており、職員のスキルアップに取り組んでいます。 ・職員が発言しやすい雰囲気づくりを行いながら毎日意見交換や情報共有を行っている。課題だったサービス提供に対しての適切な記録の仕方、職員主体での課題抽出・会議開催、事故防	・職員のスキルアップができるように、法人内外研修や職種別会議への参加を推奨していきます ・BCP研修や消防立ち会いの避難訓練を実施し、全職員の防災への意識を高め実際の場面に活かせるようにしたい

		止対策の振り返りなど改善が見られた ・夜間想定訓練 1 回、昼間想定地震・火災訓練 1 回、洪水避難訓練 1 回を実施した。職員全員一丸となって声を掛け合いながら取り組みました。	
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供（評価項目 11～27）	・日々の状態観察、生活の中で小さな変化に気付く視点を意識し、得た情報は職種間で発信し合い情報共有に努めている。変化に対してチームで共有し迅速に対応を行いサービス計画に反映させています ・事業所職員から積極的にサービス追加や変更の提案が上がっています	・利用者の状態の変化に合わせて、事業所職員がサービスの追加や変更を提案し実践できるように努めます
	2. 多機関・多職種との連携（評価項目 28～31）	・毎月訪問看護報告書を提出以外にも状態の変化をその都度報告、相談し予測支持をいただき急変時にも対応できるようにしています ・救急引継ぎシートを実際に活用することができた ・システムツール（バイタルリンク・SMSLINK）を用いることで医療機関や家族とのやり取りがスムーズに行えるようになった	・多職種との連携を密にし、利用者を中心としたサービスの提供が円滑に行なえるように努めます ・システムツールを用いて医療機関とのやり取りを円滑に進めていきます
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41）	・運営推進会議において事業所の取り組みを理解していただけるように、分かりやすい説明などを心掛けました。 ・地域の方々から施設見学や利用の相談があった場合は迅速に調整を図り必ず対応を行い適切な介護サービスの紹介や事業所のサービスの趣旨や特徴を説明しました。 ・10 月にほほえみ祭を開催し地域の方々も多数参加されました。 ・法人として地域での講演や町内行事（文化祭）への参加を行いました。	・運営推進会議の記録を全職員に周知し、会議でいただいた要望、助言などを把握しサービスの提供に反映していきます ・継続して地域との交流を深め、地域の相談窓口の一つとして、看護小規模多機能の特徴を活かし、地域からの相談の対応を行っていきます

		・利用者2名にデジタルカラー診断のモデルを勤めて頂き、仕上がり大変満足されていました	
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		・利用者とその家族には「安心してサービスを受けてもらえている」と考える職員が2/3以上となったが継続・向上できるようサービスの調整、提案を随時行っています ・より多くの職員が家族の不安や意向に対して耳を傾けながら関係作りに努めることが必要。 ・本人と家族の関係性が途切れないような支援を目指したい ・離職者もなく、以前に比べると毎日安定した人員を確保でき業務もスムーズに行えていると考える職員が多かった	・利用者本人と家族の状況に合わせて、訪問・通い・泊りサービスを組み合わせた柔軟な支援ができる体制を維持します

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	3	10	2		事業所の理念はどういったものでしょうか。運営推進会議の資料に入れていただく等、理念に触れる機会を作っていただければと思います。	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ でき て い る	あまりで きてい ない	全く でき て い ない		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	2	8	5		サービスの特徴等への理解を進めるために、何かされていることはありますか。	✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	1	8	6		個人の目標の達成はできていますか。	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	6	8	1		外部研修はどういったものに参加されていますか。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・法人外の研修もテーマに沿って各職員 が参加しており、内容の共有も行ってい る。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専 門員の間で、職員が相互に情 報を共有する機会が、確保さ れている	4	11	2		毎日のミーティングと月1回 の会議には、どのような違い がありますか。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度 を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケー スについて話し合うための、定期 的なカンファレンスの開催」など が考えられます
		[具体的な状況・取組内容] ・継続して16時から のミーティングを行 っており、必要に応 じてサービスの内 容について話合っ ている。 ・毎月1回看多機 会を継続して開催 し情報共有をより 綿密に行っている					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要 望、助言等を、サー ビスの提供等に反 映させている	2	7	6		運営推進会議に職員が交代で 参加できるのであ れば、参加した職 員の運営推進会議 への理解を深めら れると思います。 また、それによっ て、会議録にも目 がいくようになります。	✓ 「得られた要望・助言等のサー ビスへの反映」の 視点から、充足度 を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・職員が運営推進 会議の会議録をい つでも見れるよう にしており目を通 す機会が増えてい るものの、各個人 によって理解の差 がある					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことが	3	9	3			✓ 「職員が、安心して働くことので

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	できる就業環境の整備に努 めている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・残業はほとんどなく毎日安定した人数 を確保できており精神的な負担なく働け ている ・個人の希望を踏まえた無理のないシフ ト作成ができており、上司、同僚に相談 しやすい環境である				昨年度は、「負担増やマンパ ワー不足を感じる職員が多 かった」とのことでしたが、 今年度は、「負担なく働ける ようになった」のは、何かき っかけがあったのでしょうか。	きる就業環境」の充足度を評価し ます ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、 「精神的な負担の軽減のための支 援」、「労働時間への配慮」などが 考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随 時更新を行うとともに、必要 に応じて職員間で迅速に共 有できるよう工夫されてい る	3	10	2		理解度の違いを解消する違い には何が必要と考えています か。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者 等および職員の安全確保の ため、事業所においてその具 体的な対策が講じられてい る	2	9	4		個人情報適切に保管できて いますか。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」 の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、 例えば「医療・ケア事故の予防・ 対策」、「交通安全」、「夜間訪問時 の防犯対策」、「個人情報保護」な どが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	6	5	4		・ 貴事業所の防災マニュアルを知る機会がなかなかないので、運営推進会議等で見せていただければと思います。 ・ 防災訓練の様子や実際の避難経路を運営推進会議等で教えていただければと思います。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	4	8	3		サ高住併設のメリットが活かされていると思います。	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およ そで きて い る	あま りで きて いな い	全 く で きて いな い		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	2	5	8		非常に難しい事かもしれませんが、努力してほしいと思います。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	3	10	2		家族との連絡は、どれくらいの頻度で取られていますか。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	4	10	1		今後も職員全体で利用者に必要なサービスを考えてください。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おお そ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	3	11	1		リスクをアセスメントに落としこむことができていますか。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	5	9	1		サ高住併設のメリットが活かされていると思います。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	1	10	4		サ高住併設のメリットが活かされていると思います。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およ そ でき て い る	あまり で き て い な い	全 く で き て い な い		
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	11	2			✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	2	10	2	1	柔軟に行えていない場合、どういった状況が発生していますか。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行わ	5	9	1		対応策の検討ができていないと、次回同様の事例が発生した場合に、同じ状況に陥ると思いますので、後からでも	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・ 情報共有はできているが対応策の検討 が出来ていない時がある					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている	3	9	3		動画とはこういったもので しょうか。差し支えなけれ ば、運営推進会議等で見せて いただければと思います。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割の 1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説 明し、利用者等の理解を得て いる	5	7	3		利用者やご家族には十分な 説明を行って、理解を得てく ださい。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅 での療養生活の継続に向け て留意すべき点等について、 分かりやすく説明し、利用者 等の理解を得ている	1	12	2		看多機以外の事業者ともし っかりと情報共有を行って ください。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		を得られるよう努めている					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	12	1		事業所で行っている、そういった支援を、運営推進会議等で紹介してもらうことが、事業所のサービスについて知ってもらえるきっかけになると思います。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・BS チェック、インスリン自己注射の見守りを行っている。理解度や習得状況に応じて分かりやすい説明を心掛けている ・手順書を作成し実施してもらっている					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	4	10	1		希望や意向の把握は非常に大切だと思います。ケアマネが把握しているのであれば、日々のサービス提供に生かすためにも、情報共有していただければと思います。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・歩行困難な方でも歩きたい意思が強い方がいる。説明をしながら拒否ではなくチャレンジは行い、意欲をなくさないような声掛けを行っている ・ケアマネ任せの面があり職員一人一人が希望や意向をしっかり把握できていないことがある					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有す	2	11	2		サ高住併設のメリットが活かされていると思います。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ケアマネより介護負担の増加や、疾病の重度化により在宅生活に様々なリスク					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		が生じる利用者、家族に今後の対応、方向性など話し合い共有している					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	5	9	1		記録に残すことで、職員皆で共有できると思います。今後も続けていただければと思います。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	2	12	1		退院後も利用者が困らないように情報共有を進めてください。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有できている	2	10	3		緊急時の対応を職員全員で共有できていますか。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		時の対応方法を医療機関と協議している が、通院対応の利用者に関しては、家族 と急変時の対応方法を協議している					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携 により、休日夜間等を含め て、すべての利用者につい て、急変時に即座に対応が可 能な体制が構築されている	4	10	1		オンコールの手順はどのよう にされているか教えていただ くことはできますか。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
[具体的な状況・取組内容] ・夜間は看護師がオンコール対応をして おり、主治医や家族に迅速に連絡し、情 報共有できるように備えている							
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利 用者のために必要と考えら れる包括的なサポートにつ いて、民生委員・地域包括支 援センター・市区町村職員等 への情報提供や提案が行わ れている	2	8	5		運営推進会議の場が特養内な ので、実際に、看多機事業所 内や利用者の様子を見られる 機会があれば、より具体的な 提案等をしてもらえるように なるのではないかと思います。	✓ 「利用者のために必要となる、介 護保険外のサービスやインフォ ーマルサポート等を含めたケアの提 供について、多職種とともに検 討・支援を行っていくなどの取組」 の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがな い場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や 町会長などの住民代表も対象です
[具体的な状況・取組内容] ・2か月に一回、運営推進会議において情 報提供を行ない意見や提案を求めている ・職員への会議参加を積極的に促し情報 提供や提案の機会を広げていきたい							
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	3	11	1		適切な情報発信をお願い致します。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
[具体的な状況・取組内容] ・議事録は迅速に作成し、事業所玄関先とサ高住2階に設置し誰でも見る事ができるようにしている							
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	7	7		・事業所内での活動は、積極的に行われており、活動を通して、地域の方々に事業所を知ってもらえていると思います。 ・今後、地域に出向いて啓発活動を行う予定はありますか。 ・地域への啓発が有効なのはほほえみ祭などの実施。チラシを多く配布することで参加までしなくても情報発信になると思います。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
[具体的な状況・取組内容] ・法人の概要や役割などを知って頂くために毎年1回地域住民や保育園児を招いてのほほえみ祭を開催している。 ・少しずつ登録者以外を対象とした訪問看護が実施できている							
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	2	6	7		現在、何名ほど利用されていますか。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]
[具体的な状況・取組内容] ・少しずつ登録者以外を対象とした訪問看護が実施できている							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおそ できて い る	あまりで きてい ない	全く できて い ない		
							況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	3	4	7	研修への参加機会の確保が困難なのは、こういった理由からでしょうか。もしもの時を考えれば、対応が看護師のみというのは不安なような気がします。研修への参加の機会を設けるべきでは？	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・痰吸引に対応できるのが看護師のみで、積極的な受け入れには至っていない。 ・介護職の喀痰吸引研修への参加の機会の確保が困難					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			4	11	「痰吸引」同様、体制を整える努力を！！	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・受け入れることができる体制が整っておらず、受け入れ実績がない					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 の視点から、充足度を評価します
		よく でき て い る	およ そ で き て い る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている	3	7	4	1	積極的に行えていないの は、どういった理由がある のでしょうか。	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が 介護保険事業計画等で掲げ ている、地域包括ケアシス テムの構築方針や計画の 内容等について理解している	1	5	8	1	職員の理解度のばらつきは どのようにして解消しま すか。	✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす べき役割を、明確に理解すること が必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針 や計画などがない場合は、「全くで きていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1	6	3	5	今後、サ高住以外の利用者を受け入れる方針はありますか。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
[具体的な状況・取組内容] ・併設するサ高住の入居者のみがサービスを受けており、地域に対し積極的なサービス提供は行なえていない							
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	3	6	5	全職員へ取り組みの理解ができるようにお願いします。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
[具体的な状況・取組内容] ・運営推進会議を開催し必要に応じて課題提起や改善策の提案などをおこなっている ・具体的にどのような取り組みなのか理解できていない職員もいる							
41	○ 家族等や近隣住民などに対し	1	4	6	4	相談内容はどんなものがあり	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	し、その介護力の引き出しや 向上のための具体的な取組 等が行われている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・家族ができるケアや処置に関して、情報提供し共に関われるように努めている ・地域の方からの相談や事業所の見学は必ず対応しており利用や申し込みにつながる ことが多い				ますか。	護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価 します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣 住民の関わりを促しながら、関係 者全員の介護力を最大限に高める ことにより、在宅での療養生活を 支えていくための環境を整えてい くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・計画目標に沿ってサービス提供を行い、概ね目標は達成されている	今後も目標達成の継続をお願い致します。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 一日を通して看護職から助言を得られたり、相談できる環境にあり、安心につながっている	看多機のメリットが出ていると思います。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ	看取り介護をされていて、職員が困ったことはなかつ	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看取りを希望する利用者および家族がいれば医療、看護、介護が連携して利用者、家族を支援できるようにしている	たですか。	提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」